

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	平和都市宣言推進事業			事業番号	18-103
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	市民生活部	竹内 克則	市民協働課	土方 哲也	

計 画 (Plan)

総合計画体系	安心力	まちづくり目標	2	地域で助け合う安全で安心なまち	
		基本政策	5	暮らしの安心がひろがるまちづくり	
		施策展開の方向	2	一人ひとりが大切にされるまちをつくる	
		施策	18	互いに尊重し合うまちづくりの推進	
予算事業名	平和推進事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前	～	終了年度	-
関連法令等	伊勢原市平和都市宣言、伊勢原市平和都市宣言推進事業補助金等交付要綱				
国・県の計画等				計画期間	
関連個別計画				計画期間	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	「過去の戦禍による尊い犠牲と教えを無にすることなく、平和の意味とその尊さを語り継ぎ、伊勢原市民として、この美しい故郷を次世代に引き継いでいかなければならない。」とする「伊勢原市平和都市宣言」(平成5年12月8日制定)の実現が求められている。				
目的 (何をどうしたいのか)	平和都市宣言に明記した恒久平和の実現と核兵器の廃絶の趣旨を広く啓発する。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市民及び平和活動団体				
事業内容 (手段、手法など)	<ul style="list-style-type: none"> ・市立中学校3年生を対象に平和作文の募集を行い、優秀な成績を修めた者を、平和の旅に派遣します。 ・平和のつどいを開催し、平和の旅体験発表などを通して、広く市民に平和の意識を啓発します。 ・戦争を直接知る世代が少なくなるため、体験談を映像化し保存するとともに、平和史料の収集・公開を行います。 				
事業行程	項目	年度			
		28年度	29年度		
	平和作文募集	継続実施	継続実施		
	中学生平和の旅	継続実施	継続実施		
	平和のつどい	継続実施	継続実施		
平和史料収集公開	収集・公開	収集・公開			
目 標	【指標名】	【現状】	年度		
			28年度	29年度	
	平和史料の収集公開状況	調整・収集	収集・公開	収集・公開	



事業実施(Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	平和史料収集事業における戦争体験者のインタビュー映像撮影及び史料収集を進めるとともに、平和のつどいで の発表やインターネットを活用した公開を実施していく。 戦後70年が経過し、さらに平和意識を継承していくための機会として、過去、「中学生平和の旅」に参加した学生に 平和のつどい実行委員としての参加を求め、世代を超えた交流の場をつくる。		
実施方法 〔選択・記入〕	○ すべて直接実施 ● 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者
	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金		補助先
	<input checked="" type="checkbox"/> その他		具体的内容
実施結果	項目	年度	
		28年度	29年度
	平和作文募集	継続実施	
	中学生平和の旅	継続実施	
	平和のつどい	継続実施	
平和史料収集公開	収集・公開		
実施した取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・平和作文応募(808点) 優秀賞8点、佳作8点を選考 ・中学生平和の旅(平和作文優秀者8人、事務局1人、随行教諭2人派遣) ・平和のつどいの開催(来場・参加者数233人) ・平和史料収集(映像)取材人数2人 		
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度
			28年度
	平和史料の収集公開状 況	調整・収集	収集・公開
			29年度

年度		28年度 実績				29年度 実績			
内訳	事業費合計 (a)	726		千円				千円	
	国県支出金 ①	0		千円			千円		
	地方債 ②	0		千円			千円		
	その他特財 ③	0		千円			千円		
	一般財源 (a)-①-②-③	726		千円	0		千円		
国県支出金の内容									
コスト	その他特財の内容	受益者負担	○ 有 ● 無		前回の改定時期				
		その他							
人件費	正規職員	0.5	人	4,325	千円		人	千円	
	その他の職員	0	人	0	千円		人	千円	
	人件費合計 (b)	0.5	人	4,325	千円		人	千円	
トータルコスト (a)+(b)				5,051	千円			千円	
単位 当たり コスト	対象数	定義	平和推進事業参加者			単位	単位		
		対象数	1,043		人				
	総事業費 ／対象数	4,843		円		円			

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・戦中・戦後の史料収集を市民に呼びかけ、実施することができた。併せて市文化財課所蔵の平和史料等を「平和のつどい」での展示を実施し、多くの来場者に戦争の記憶や平和希求の意識の高揚が得られた。 ・平和史料収集・公開事業において収集した平和史料の一部をインターネット上で公開することができた。
実施水準 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	A	他都市の事業内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣3市(秦野市、平塚市、厚木市)と同等の事業を行っている。 ・東海大学との協働により事業を行っている。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・平和のつどいにおいて実体験のインタビューを収録した映像を上映することで、参加者に平和希求の意識が啓発されている。 ・平和史料収集事業において、戦争体験者の記憶を映像に残すことで、平和希求の思いを次世代へ継承することが可能となった。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や平和活動団体、東海大学との協働により、事業に関する予算の支出を抑えている。


 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・太平洋戦争から70年以上が経過し、戦争体験者が高齢化するなかで、実体験を語るができる人が少なくなっている。そのため、平和史料収集事業における戦争体験者の記憶の映像収集が急がれる。 ・平和意識を後世に継承していくため、「平和のつどい」等のイベントに多くの若い世代に参加を求め、関心を持ってもらう必要がある。
次年度取組方針		<ul style="list-style-type: none"> ・平和史料収集事業における戦争体験インタビュー映像撮影及び史料収集を進めるとともに、平和のつどいでの発表やインターネットを活用した公開を実施していく。 ・平和意識を後世に継承していくための機会として、「中学生平和の旅」に参加した学生に平和のつどい企画運営委員としての参加を求め、世代を超えた交流の場をつくとともに、時代に合わせた「平和のつどい」の在り方を検討していく。 		
所管部長による総評		<ul style="list-style-type: none"> ・戦争体験インタビュー映像を平和史料として撮影、保存及び公開をする事業は、平和意識の次代への継承に意義あるものであり、更に「平和のつどい」等の平和推進事業により市民の意識高揚につながる効果的な事業の推進がなされている。 ・今後も若い世代に参加を求め、関心を持ってもらう働きかけをし、多くの市民に平和意識を継承していくことが重要である。 		